



### ◆くぐり門◆

長屋門には大きな扉の他にくぐり門と呼ばれる小さな扉があります。普段は大きな門は閉じたまふ、人々はくぐり門を通して出入りをしていました。招待行事や格式の高い人が訪れた時だけ大きな扉を開けて、中へ通してました。



### 構造的特徴



#### いりや 入母屋造り

入母屋造りとは、屋根形式の一つです。上部は二方に、下部は四方に庇(ひさし)を葺きおろした造りのことです。



#### しきの 出桁構造

桁を表に通し、軒(のき)を支える横梁を載せたものです。建物にどっしりとした印象を与えます。

### 職人の技

#### 曲がり木

天然の曲がり木を生かすことで、他にはない個性的な空間を生み出します。

曲がり木は一本一本性質が異なるため、建材としては非常に使用が難しいものです。大工の棟梁の長年の経験と勘があってこそ使用できる巧みの技です。



### 装飾

長屋門には、気仙大工による美しい装飾が施されているものもあり、気仙大工の技量と心意気が垣間見えます。

下の写真では、門上部の欄間(らんま)に「松竹梅」の美しい彫刻が施されています。



### 協力

- 独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 東北職業能力開発大学校  
〒987-2223 宮城県東原市蔭宿字森沢土崎25  
電話：0228-22-2082 FAX：0228-22-2432
- くりはら長屋門研究会(東原市産業経済部 田園観光課)

### お問い合わせ

- 東原市 産業経済部 田園観光課  
〒989-5612 宮城県東原市志波姫新熊谷284番地3  
電話：0228-22-1151 FAX：0228-23-5370  
メールアドレス：kanho@kurikansuicity.jp  
URL：http://www.kurikansuicity.jp



# くりはら 栗原の ながやもん 長屋門

～ 凛とたたずむ郷 くりはら ～



栗原の暮らしの中に当たり前にある長屋門。歴史や文化、産業などが時代の流れとともに変化していきながらも、今もなお500軒以上の長屋門が残っていることは、他の地域ではなかなか目にすることができない貴重な地域資源です。

長屋門は地域の歴史や文化を学ぶ歴史的な建造物群としての価値に加え、屠久根と呼ばれる屋敷林に囲まれた母屋、土蔵や板蔵が一体となった農村景観としての魅力もあります。

### ◆長屋門とは◆

長屋門は、江戸時代に諸大名の武家屋敷門として発生した門形式の一つで、陣屋の正門として多く造られました。

諸大名は、自分の屋敷の周囲に、家臣などのための長屋(集合住宅の一形態)を建てて住まわせていましたが、その一部に門を開き、一棟としたのが長屋門の始まりです。長屋門では、門の両側に門番や仲間部屋が置かれ、家臣・使用人の住まいに利用されました。

その後、諸大名だけでなく、有力武士の武家住宅の表門として利用され、明治時代以降には、富農の家屋敷にも造られるようになりました。